

M3T-PD32RM, M3T-PD32R, M3T-PD308F, M3T-PD308, M3T-PD30F および M3T-PD30 ご使用上のお願い

エミュレータデバッガM3T-PD32RM, M3T-PD32R, M3T-PD308F, M3T-PD308, M3T-PD30F,およびM3T-PD30の使用上の注意事項を連絡します。

- Cウォッチウィンドウを使用する際の注意事項

1. 該当製品

M32Rファミリ M32100T5-SDI-E, M32100T3-SDI-E, およびM32100T-EZ-E用
M3T-PD32RM V.2.00 Release 1 ~ V.2.10 Release 1

M32Rファミリ M32100T2-SDI-E用
M3T-PD32R V.4.00 Release 1 ~ V.4.10 Release 1

M32C/80,M16C/70シリーズ用
M3T-PD308F V.3.00 Release 1 ~ V.3.20 Release 1

M32C/80,M16C/80シリーズ用
M3T-PD308 V.5.00 Release 1 ~ V.5.20 Release 1

M16C/60,Tinyシリーズ用
M3T-PD30F V.2.00 Release 1 ~ V.2.20 Release 1

M16C/60,30,20,10シリーズ用
M3T-PD30 V.8.00 Release 1 ~ V.8.20 Release 1

2. 内容

Cウォッチウィンドウで構造体、共用体、クラス、配列、およびポインタを展開すると、エミュレータデバッガがハングアップすることがあります。

2.1 発生条件

以下のいずれかに該当する変数の場合に発生します。

- (1) typedef宣言された構造体、共用体、クラス、およびポインタ型を、再度typedef宣言した型である。

次の例の場合、s2とp2の展開時にハングアップします。

s1とp1、pS1 (typedef宣言されたポインタ型の変数であるため)、およびs3 (typedef宣言された構造体型の変数であるため) は問題ありません。

```
例 : -----  
---typedef struct tagS1 {  int a;  int b;}  
STRUCT1;STRUCT1 s1;          /* 非該当  
*/typedef unsigned char* PSTR1;PSTR1 p1;  
/* 非該当 */typedef STRUCT1 STRUCT2;STRUCT2 s2;  
/* 該当 */typedef PSTR1 PSTR2;PSTR2 p2;  
/* 該当 */typedef struct tagS3 {  STRUCT1 s;  int c;}  
STRUCT3;STRUCT3 s3;          /* 非該当  
*/typedef STRUCT1* PSTRUCT1;PSTRUCT1 pS1;  
/* 非該当 */-----  
-----
```

- (2)以降は、デバッグ対象のオブジェクトファイルがELF/DWARF2フォーマットの場合のみ該当します。他のフォーマットの場合は問題ありません。

- (2) typedef宣言された構造体、共用体、クラス、およびポインタ型を、const修飾、あるいはvolatile修飾している。

```
例 : -----  
volatile STRUCT1 vs1;          /* 該当 */const PSTR1  
cp1;          /* 該当 */-----  
-----
```

- (3) const修飾、あるいはvolatile修飾された構造体、共用体、クラス、およびポインタ型を、別名でtypedef宣言した型である。
次の例のcpstrはポインタが修飾されていないので問題ありません。

```
例 : -----  
typedef unsigned char* const PCSTR;PCSTR pcstr;
```

```
/* 該当 */typedef const unsigned char* CPSTR;CPSTR  
cpstr; /* 非該当 */-----  
-----
```

- (4) const-volatile修飾された構造体、共用体、クラス、配列、およびポインタ型である。

次の例のvpcstrおよびcpvstrは、ポインタがconst-volatile修飾されていませんので問題ありません。

```
例 : -----  
unsigned char* const volatile pcvstr; /* 該当 */volatile  
unsigned char* const vpcstr; /* 非該当 */const unsigned  
char* volatile cpvstr; /* 非該当 */-----  
-----
```

3. 回避策

以下のいずれかの方法で回避してください。

- (1) 該当する変数を参照する際は、スクリプトウィンドウでprintコマンドを使用して参照してください。
- (2) 発生条件(1)および(3)の場合、typedefの代わりに#defineをご使用ください。

```
例 : -----#define STRUCT2  
STRUCT1STRUCT2 s2;-----
```

4. 恒久対策

次期バージョンアップ時に改修する予定です。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。